

施設見学会



松下幸之助歴史館



企業成長の歴史



世に送り出された製品群

電気設備関連施設などの見学や会員間の交流の促進を図ることを目的として、技術・安全委員会の企画による施設見学会が、4月22日（金）会員企業14社、総勢22名の参加により開催されました。

最初に門真市のパナソニックミュージアム松下幸之助歴史館を訪れました。大正7年大阪市内における松下電気器具製作所創立以来、電気使用の日常化の先導者的な存在として生活の近代化に大きく貢献した松下幸之助の事跡を振り返り、電気設備業界に身を置くものとして、改めて電気使用の歴史に根ざした様々な教訓を得ることを見学の目的としました。

当歴史館では、創業から第2次世界大戦を経、高度経済成長期を通じて世界的な企業に成長していく過程で、世に送り出された多様な電気製品、二股ソケット・ラジオ・テレビ・冷蔵庫・洗濯機をはじめ製品群が製造の歴史を辿れるよう展示され、また映像コーナーやフォトライブラリーでは同氏の考え方や経営理念が紹介されていました。電気設備業界に携わる会員にとっては、いわば自らの歴史を振り返ることにもなり、改めて業界の社会的使命を認識する機会となりました。

次に、西宮市鳴尾浜の朝日新聞阪神工場を訪れました。同工場では、大阪本社からデジタル回線で送られてきた紙面データを製版化し、立体倉庫の巨大な巻取り新聞用紙へ印刷、ベルトコンベアで発送先ごとに自動仕分け・梱包し、輸送トラックへ搭載する等効率的にシステム化された新聞づくりが行われており、日常的に届けられる新聞が生まれてくる過程、そしてこの製作工程に果たす電気設備の役割も学ぶ施設見学となりました。



松下幸之助を学ぶ



新聞作りのレクチャー



巨大な新聞用紙